

C班は、新町町会の2名です。国道15号を中心に事業所ビルと集合住宅、貴重な緑地帯でもある急傾斜地と線路に囲まれた細長い地域です。

地域のリスクとして、高層ビル火災と液状化が指摘されました。また、下水等のライフライン停止中の生活維持が課題ですが、在宅避難生活のイメージが湧きにくいという意見が挙がりました。

住友不動産三田ツインビルの広場が、地域の一時避難場所になっていますが、三田三・四丁目地区再開発の公開緑地が地域の防災拠点になると期待されます。住民が少なく、災害時のマンパワー不足が課題との認識で、企業と毎月会合を持ち連携を模索しているとのことでした。次回のまち点検は、高輪郵便局に集合し、まちを縦断します。



本日の講評 ~市古先生より~



周辺の大学との連携というアイデアは、過去のワークショップ（2018年度 白金台四丁目地区）でも挙がっていました。

次回のまち点検で地域の課題や資源を再確認し、それらを踏まえつつ復興に関するアイデアを多く出していきましょう。

（文責：事務局）

アンケートの主な意見

- 「復興」を改めて考える機会でした。
- 日常生活の中から、復興のヒントを見つけたいと思います。
- まずは地域の特性を知ることが大事。
- 住民一人ひとりの繋がりが大切だと感じました。
- 水やトイレが心配なので、どう乗り越えるかアイデアを考えていきたい。
- 他地区の事例など、具体的な話が聞けて良かった。

震災復興まちづくり ワークショップニュース



令和4年11月 【発行】港区芝地区総合支所まちづくり課まちづくり係 電話：03-3578-3104

第1回ワークショップを開催しました！

「震災復興まちづくりワークショップ」は、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、震災復興の手順や方針を地域のみなさんと区職員、専門家とともに話し合うなどして備えておくワークショップです。

令和4年11月17日（木）、芝区民協働スペースで第1回が行われました。地域の方々、区職員、専門家計29名が集まり、市古太郎先生（東京都立大学教授）のお話を聞いて、復興に備えるとはどんなことか、イメージを膨らませました。（P.2をご覧ください）

2月の第4回ワークショップまで、みなさんと一緒にしっかり考えていきましょう！



当日ワークショップの様子

第2回のご案内

震災被害をイメージして復興課題を考えよう！
～地域の方々に誘って、みんなで話し合ってみましょう～

日時：令和4年12月4日（日）9：30～12：00

場所：芝区民協働スペース（C班の方は高輪郵便局に集合）

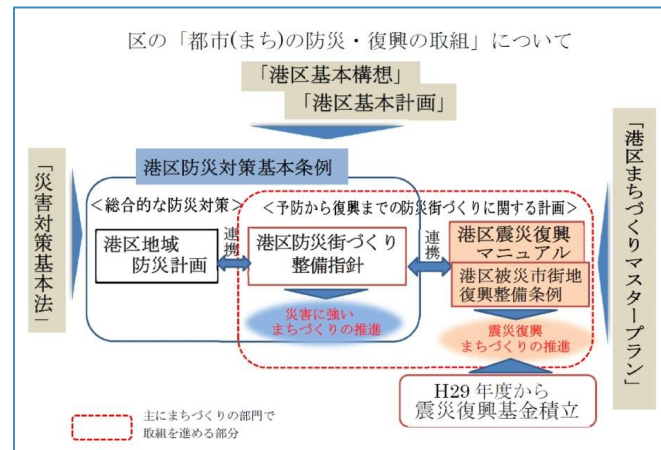
内容（予定）：

- 震災でどのような被害がどこで起きやすいか、防災や復興に役立つ資源がどこかにあるか、まち歩きをして確認します。
- まち歩きで確認したことをもとに、芝・三田地区の復興の重要なテーマやポイント、復興の方針づくり等を話し合っていきます。

区の防災対策と復興のすすめ方

港区街づくり支援部都市計画課の大浦係長から、区の取り組みについて説明がありました。

事前の取り組みといざという時の取り組みの両方を進めていくには、区民の皆さんと一緒に取り組むことが大切です。また「防災街づくり整備指針」（概要版）も配布されました。



市古先生の講演

「芝・三田地区での震災復興まちづくり訓練の意義 ～東京都の新地震被害想定も踏まえて～」

市古先生に、これまでの区内での訓練成果も踏まえながら、芝・三田地区で訓練を行う意義や、大切な視点について講演していただきました。

まず、東日本大震災の復興からの教訓を共有し、日常的なまちの資源の把握など事前に備えておく重要性を学びました。

次に、今年5月に発表された想定東京湾北部地震の被害様相の説明がありました。港区では、隣接4区（中央区、渋谷区、品川区、大田区）と比較すると、地震による全壊や半壊などの建物被害は少ないが、帰宅困難者数などの人的被害が多いという被害の特徴が挙げられました。

最後に、回復にむけたアイデアとして次の3つが挙げられました。



▼M7.3 都心南部直下地震 被害想定

	夜間人口	人的被害 死者	負傷者	避難者数	帰宅 困難者数	自力脱出 困難者数
港	260,486	127 0.04%	5,274 2.0%	58,408 22.4%	531,372 204.0%	1,955 0.8%
中央	169,179	84 0.04%	2,702 1.6%	50,126 29.6%	337,097 199.3%	968 0.6%
渋谷	243,883	83 0.03%	2,954 1.2%	53,124 21.8%	237,837 97.5%	1,026 0.4%
品川	422,488	288 0.07%	4,492 1.1%	131,126 31.0%	233,316 55.2%	1,359 0.3%
大田	748,081	726 0.10%	7,815 1.0%	313,000 41.8%	123,906 16.6%	2,643 0.4%

アイデア **1** まちの特性と想定される震災被害及び復興の課題

アイデア **2** 暮らしとまちの回復に資する空間資源

アイデア **3** 復興に向けた地域資源と活用アイデア

班ごとにまちの課題や資源について話し合いました！

A 班

A班は、芝五丁目町会と芝和城会の5名です。慶応仲通りなど飲食店が密集した商店街、北側の集合住宅と事業所が混ざったエリア、他にも公的施設、14階建てアパートがある特色ある地区です。避難所が遠いので、災害後も現在地で生活や営業が継続できる環境づくりが重要です。課題として、集合住宅でのライフライン長期停止時の生活維持、混在地でのコミュニティ確保、商業地での老朽・空き店舗や火災対策、地域と事業所の関係などが指摘されました。

一時集合場所は芝五丁目会館と芝五丁目児童遊園ですが、他に旧図書館など活用できそうな建物もあります。次回のまち点検は、芝区民協働スペースを出発し、防災や復興について現地で考えます。

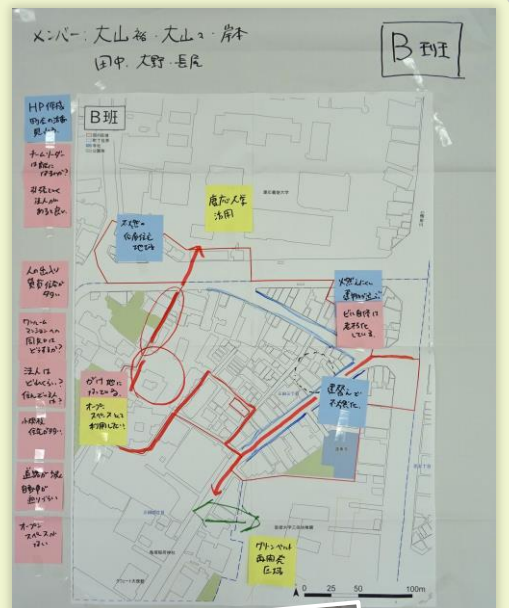


B 班

B班は、三田慶南町会の3名です。この地区は、事業所やマンションよりも戸建住宅が多いエリアです。古い建物が多いため、地震や火災に対する心配は少ないですが、地区南西の崖が避難時に心配であるという意見が挙がりました。

この地区の一番の課題として、地域内にオープンスペースがないことが挙げられました。アイデアとして、地区の周辺のオープンスペースを利用するという視点で、三田三・四丁目地区再開発で創出される空地や慶応大学のキャンパスが挙げられました。

次回のまち点検では、芝区民協働スペースに集合し、まちの危険な場所と資源になりそうなオープンスペースを中心に見ていきます。



第2回の講評 ～市古先生より～



芝・三田地区には、学生や若い単身世帯、高齢者など多様な住民が暮らしおり、A・B班で単身世帯と町会との接点が薄い、町会に対して無関心という課題が挙がっていました。

当地区の特徴として、飲食店、事業所、小規模なアトリエ等の事務所として利用されている集合住宅など非居住系の建物利用が混在していることが、挙げられます。これらは、復興の優先順位が異なるため、当地区の復興を考えるにあたって、災害後の対応の優先順位を知っておく必要があるでしょう。飲食店や事業所の立場に立って、災害後にどのように回復していくか考えることが、当地区の復興を考えるうえで重要な視点になります。

また、田町駅周辺は青山や麻布に比べ、慶応大学の学生や NEC の社員など固定客の来街者が多い繁華街という印象があります。

地域の飲食店、事業所、来街者の特性といった日常的な特徴から地域の復興の在り方が見えてきます。地域の特徴を再確認し、残り2回で“芝・三田地区らしい”復興のシナリオを考えていきましょう。(文責：事務局)

アンケートの主な意見

- よく知っているエリアと思っていましたが、皆で歩きながら確認することで、知らなかったことを発見でき、とても参考になりました。
- 地区内で気にしていなかった「キケン」な物を注意するようにしたい。
- 地区内にオープンスペースが少ない現実を再確認しました。
- 地震とその後の火災が発生する時間帯によって対応が異なるため、今後検討していきたいです。
- まず火災の危険性、特に夜間の人のいない地域が心配です。
- 改めて地域のコミュニケーションが必要だと思いました。
- 町会としても情報発信・情報提供が必要か考えたいです。
- 込み入った場所で生活している中で改めて防災訓練、避難訓練の必要性を感じました。

No.
2

芝・三田地区

震災復興まちづくり ワークショップニュース



令和5年1月 【発行】港区芝地区総合支所まちづくり課まちづくり係 電話：03-3578-3104

第2回ワークショップを開催しました！

「震災復興まちづくりワークショップ」は、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、震災復興の手順や方針を地域みなさんと区職員、専門家とともに話し合うなどして備えておくワークショップです。

令和4年12月4日（日）、18日（日）、芝区民協働スペースで第2回が行われました。地域の方々、区職員、専門家計34名が集まり、まちを歩いて、震災時に被害が発生しやすい場所や復興時に資源となるものをイメージして芝・三田地区復興について考えました。

次回は、今回出された意見を深堀していきましょう！



当日ワークショップの様子

第3回のご案内

被災後のまちで大事な取り組みを考えよう！

日時：令和5年1月23日（月）18：30～20：30

場所：芝区民協働スペース

内容（予定）：

- 標準的な復興の手順を学習しましょう。
- 震災発生から1か月頃をイメージして、芝・三田地区の復興・生活回復のあり方（大切にすべき方針や手順など）を深く掘り下げてみましょう。

まち歩きの様子と成果

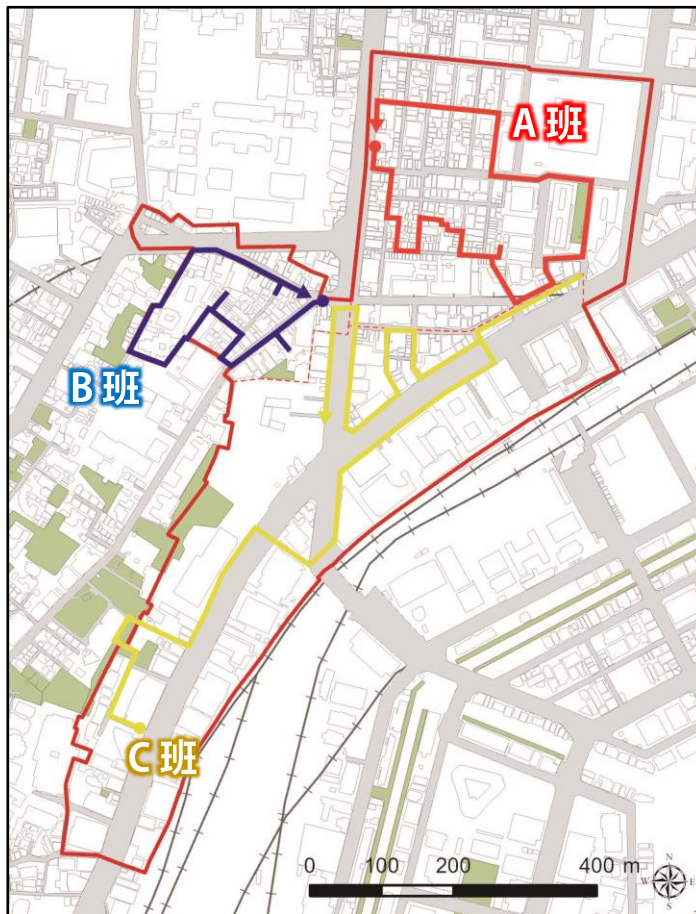
- 各班に分かれ、役割※を決めて、まち歩きのポイントと概ねのルートを確認してからスタートしました。

※役割：班長、カメラ係、記録係、発見係



当日まち歩きの様子

各班のまち歩きのルート



A 班

飲食店で賑わう慶応仲通り商店街一帯は、老朽建物やビルがあり、大地震で建物倒壊や火災の危険性が高いです。また、私道が多く、被災した建物は個別で再建できない可能性があります。

被害が少なそうな都営住宅は、水やトイレ確保が重要で、一時集合場所の芝五丁目児童遊園もあるため復興の資源となりそうです。

地区北側は、住宅と事業所の連係が被災後の助け合いに重要です。加えて、東側と南側には大規模な業務ビル等があり、空間や物資の資源もあるため、事業所と普段から交流を進めていくと良いです。

井戸など災害後の水源がほしいという切実な意見も挙がりました。災害直後から復興まで順を追って考える必要があるようです。



B 班

まち点検では、地域にオープンスペースとして使える場所が少ないことを改めて確認しました。また、災害時に危険性の高い場所として、地震時に看板が落下する可能性がある店舗の多いエリアや、老朽化したピロティ構造のビル、地区中央にある古いブロック塀を確認しました。

新築マンションの敷地内に町会の防災倉庫を設置してもらった場所も確認しました。防災倉庫にはスタンドパイプやヘルメットを備蓄しているため、防災の資源として活用できます。

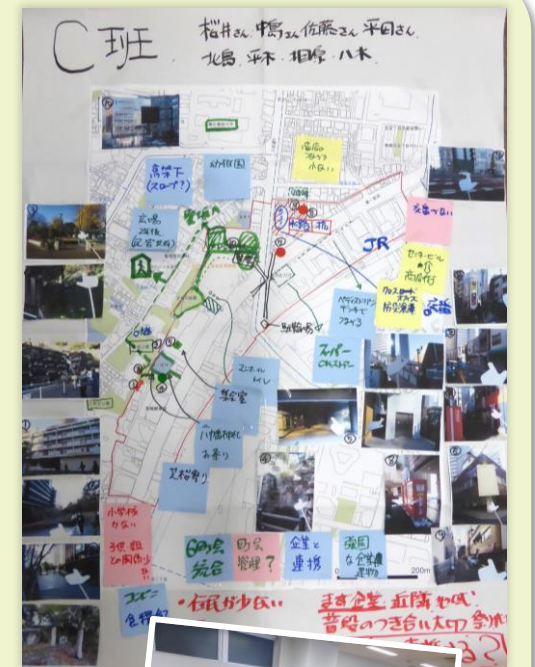
当地域の方は、在宅避難が基本となることが考えられますが、慶應大学や三田中学校、亀塚公園等を避難場所等として利用できるよう協力体制を築いていくことが重要です。



C 班

町会住民が少なく再開発が進む地域です。亀塚公園周辺の傾斜地が、壁・段差として避難時に懸念されます。課題として、一時避難場所として公開空地活用方法と在宅避難時の生活確保が挙げられました。一方、傾斜地は緑豊かで湧き水・史跡があり、神社・芝桜の花見イベント活用による住民交流促進が期待されます。加えて、札の辻再開発では、官民連携により広場が整備され、将来的には三田駅から聖坂までペDESTリアンデッキで周辺地域がつながれることを確認しました。

他地域及び、企業との連携が必須で、連携内容の詰めが必要です。今回は、商店主の方にも参加いただき、木造密集店舗地域の放置自転車や火災危険性も確認しました。



第3回の講評 ～市古先生より～



どの班でも企業や事業所、大学などとの連携が論点になっていました。

連携も重要なことですが、災害時に企業や大学が、どのように業務を復旧・継続させるか検討しているかを知ること重要です。各企業のBCP※を地域で共有することで、企業と地域の連携の可能性がより見えてくるのではないのでしょうか。

また、復興の資源として、訓練で挙げたもの以外に、災害ボランティアが考えられます。本地域の特徴として、単身の若者など若い世代が流動的に居住していますが、地域とつながるきっかけがないことが挙げられます。そのような人たちが、災害時に災害ボランティアセンターを介して自分の住んでいる地域に貢献する流れも生まれるのではないのでしょうか。普段は地域とのつながりがない若い人に手伝ってもらうための手段として、災害ボランティアセンターの活用を検討しても良いかもしれません。(文責：事務局)

※BCP：企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画のこと。

アンケートの主な意見

- 具体策について話し合いができたのは良かった。改めて情報収集、企業や団体との連携の重要性を感じた。
- 地域のつながりを再確認する必要がある。また、地域に何が必要なのかを整理したい。
- 震災発生から1か月頃のことを学び、グループでの話し合いが出来て良かったです。また、発表した内容を聞いてとても為になりました。
- 色々と話し合いができ、勉強になりました。町会に持ち帰って報告します。
- 旧三田図書館を災害対策用の備えとして活用できないか。
- 復興の議論をしているうちに、普段考えていなかった事や町の風景などが見えてきた様に思えてよかった。
- 大事な意見が沢山出ておりましたが、半面、難しさも多かったです。

No.
3

芝・三田地区

震災復興まちづくり ワークショップニュース



令和5年2月 【発行】港区芝地区総合支所まちづくり課まちづくり係 電話：03-3578-3104

第3回ワークショップを開催しました！

「震災復興まちづくりワークショップ」は、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、震災復興の手順や方針を地域のみなさんと区職員、専門家とともに話し合うなどして備えておくワークショップです。

令和5年1月23日（月）、芝区民協働スペースで第3回が行われました。地域の方々、区職員、専門家計23名が集まり、3つのテーマ（復興の進め方、ハード面の復興まちづくり、生活回復のための取り組み）に分かれて、復興のアイデアを出し合いました。（2～4ページをご覧ください）

次回は、まとめの回です！



当日ワークショップの様子

まとめの会（第4回）のご案内

ふだんのまちづくり、地域づくりを見直そう！

日時：令和5年2月17日（金）18：30～20：30

場所：芝区民協働スペース

内容（予定）：

- これまでの成果を整理して、振り返ります。
- 芝・三田地区の復興に備えて、これからのまちづくり・地域づくりで何をしていくとよいか等を話し合いましょう！

復興まちづくりの流れと、被災者支援の実例紹介

- 過去の大震災での被災後 1 か月後の写真を紹介しながら、都市復興マニュアルで考えられている標準的な復興の進め方を学習しました。
- 被災者生活再建支援金など、東日本大震災を例に、暮らしや住まいなどの再建で被災者が受けられた支援策を学習しました。



仮設住宅の建設



ボランティア

出典 左：東日本大震災アーカイブ宮城(名取市)
右：熊本災害デジタルアーカイブ

芝・三田地区の復興のアイデア

- これまでのご意見をもとにした復興に係る3つのテーマについて話し合い、芝・三田地区のまちの復興のアイデアを出し合いました！

復興の進め方

ハード面の復興まちづくり

生活回復のための取り組み

復興の進め方

場所によって震災被害の様相が異なる可能性があります。復興時には「地域としてみんなで助け合う」を理念に①情報の把握、②互助の推進、③他への要請等を進めていきたいという意見が挙がりました。

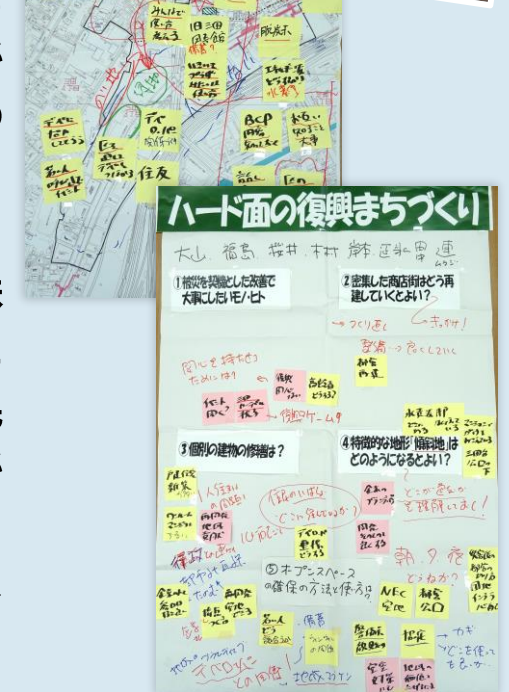
三田中学校が避難所の間は運営に注力し、完了後は、コミュニティハウスを拠点として地区の復興に目配りする組織（復興協議会）を設け、そこでは情報を持ち寄り、地域要望の解決、大きな事業所等への協力依頼、区などへのアピール、SNS や掲示版を活用した広報などのアイデアが出ました。また、町会・自治会だけでなく、商店街や事業所、学生等ボランティアなど復興に取り組む人々で構成するのがよいという意見も挙がり、地域連携のあり方として期待が出来る話し合いでした。



ハード面の復興まちづくり

「オープンスペースの確保」について、再開発事業の中で緑地や広場ができるのでデベロッパーとの関係づくりを行いたい、企業のビルやその周囲の広場利用について早朝や夜中の発災でもコンタクトが取れるよう連携が必要等の意見が挙がりました。なお、これらは、いずれも行政のサポートが必要という意見でした。

復興に関するアイデアとして次の4つが出ました。①復興の関心を高めるために若い人が興味を持つようなイベントが必要であり、三田カーニバルで復興ゲームを行う、②企業のBCPを住民も共有することにより WinWin の関係づくりができる、③大学との連携では合同避難訓練をしよう、④旧三田図書館はリノベーションをして備蓄倉庫を設ける等災害時の拠点にする。

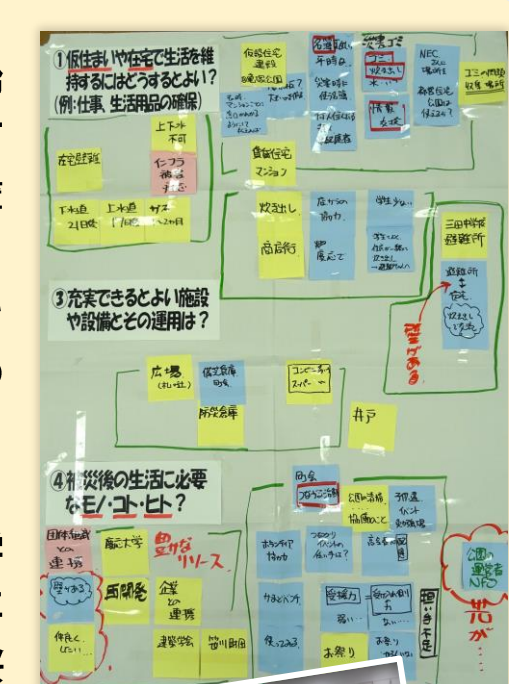


生活回復のための取り組み

震災 1 カ月後の在宅生活では、集合住宅の高齢者等要配慮者数把握による情報伝達と支援の可能性が有効で、緊急時利用の事前了承による名簿確保が可能だと確認しました。

避難所生活者への遠慮の「壁」については炊き出し交流が有効、災害ゴミ置場確保のため NEC の敷地利用交渉の必要性、札の辻の広場活用を探りたい等の意見が挙がりました。

芝・三田地域では、有名企業・慶応大学・建築学会・財団・札の辻の広場運営者 NPO 等のヒト、再開発による利用可能な施設・空間等のモノ、芝桜イベント・お祭り・学園祭等のコトなど豊かな資源が再認識されました。一方で、連携する担い手不足と受け入れ側の力(受援力)が弱いとの意見が挙がりました。



第4回の講評 ~市古先生より~



各班の発表を聞き、復興協議会を発足することが共通認識になっていると感じました。

復興協議会では、SNS等の情報発信ツールを活用して、上手に情報共有していけると良いです。

特に在宅避難の場合、災害状況や支援物資の内容、避難生活のノウハウなどの情報を共有することが大事です。また、各町会で日常的に活用している連絡網も災害時における大事な資源になります。

災害時に地域の繋がり力を発揮するための取組みとして、炊き出しで交流するというアイデアが挙がっていました。炊き出しは、ささやかな温かいお茶とお菓子を出すお茶会のようなやり方でも良いかもしれません。その際には、日常的な地域のサロン活動を災害時にも活かしていけると良いでしょう。お茶会の実施も復興協議会が取り組むべき活動の一つかもしれません。他にも災害時の取組みにつながるような日常的な活動があるか引き続き考えていけると良いです。(文責：事務局)

アンケートの主な意見 ~今年度のワークショップ(WS)を通して~

回数を重ねるごとに分かって来た事も多いが、やればやる程難しい部分もあり、今後に活かしていきたい

様々な視点で想定できる問題に気付く事ができて良かったです

日常的に近隣地域や企業、他協議会と連携することが重要だと思いました

住民の皆さんの防災に対する意識の向上が大事だと思いました

今までは、災害時の飲食物やトイレのことばかり考えていましたが、今回参加して情報収集や助け合いの大切がわかりました

参加者を増やしていきたいと思いました

今回話し合ったことを忘れないようにして、年に何回か話し合う場を設ける必要があると思いました

皆さん真剣に考えたことで、自信がついたと思います



復興時の進め方や課題解決の方向性を地域ごとに深めました！

「震災復興まちづくりワークショップ」は、大震災を想定した復興過程を模擬体験して、震災復興の手順や方針を地域みなさんと区職員、専門家とともに話し合うなどして備えておくワークショップです。

令和5年2月17日(金)、芝コミュニティハウスでまとめの会(第4回)が行われました。地域の方々、区職員、専門家計21名が集まり、各区域に分かれて、これまでの検討で出された復興時の課題について、どの課題から事前に準備しておくとか、考えてみました。

(2~4ページをご覧ください)



これまでのワークショップを振り返り 芝・三田地区の復興の備えについて話し合いました！

- これまでの意見を基にした以下の芝・三田地区への投げかけについて区域ごとに、どの課題からどのように、事前に準備しておくとうい、話し合いました。

第1回～第3回の意見

芝・三田地区への投げかけ

- ①情報収集・発信はどうする？
- ②事業所などとの連携はどうする？
- ③在宅避難者のサポートはどうする？
- ④生活を続けるのに必要なことをどう準備する？
- ⑤災害時に地域のつながりの力を発揮するには？
- ⑥まちの共用空間をどうつくるか？



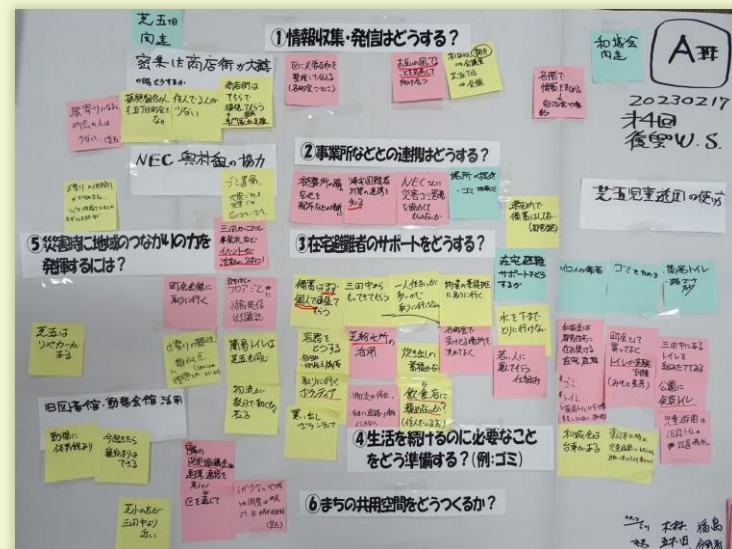
A 班

芝五丁目町会と和城会の方で話し合いました。

三田中学校での避難所運営後、在宅避難の生活維持が重要です。支援を得るために、都営住宅は各自治会室、芝五丁目町会は町会会館、芝・三田地区としてはコミュニティハウスが拠点となり、情報集約しつつ連携できると良いです。

在宅避難で特に重要なのはトイレと水で、簡易トイレや飲料水の家庭備蓄、食糧等支援物資は各拠点からボランティアの協力で困っている世帯に配ることが考えられます。

上記の他に、①商店街で甚大な被害があった場合は行政や専門家の支援を受けて地権者や商店主がまとまって復興に取り組む、②旧図書館や勤労福祉会館は仮住まいの施設として区が運用する、③復興時は隣接の防災協議会とも連携するという意見が挙がりました。



B 班

三田慶南町会の方と主に災害時における人との繋がりや情報発信・情報収集の方法について話し合いました。

災害時に地域の人との繋がり力を発揮するため、町会のイベント等で事前に顔見知りを増やしていけると良いという意見が挙がりました。三田慶南町会は、周辺の町会との繋がりが良好であり、比較的広範囲での連携は取れていますが、地区内の身近な方との連携が取れていないことに気づきました。

町会として、回覧板やHPなど情報発信に既に取り組んでいますが、住人からの情報を受信する体制や仕組みが整っていないため、情報収集の方法が課題としてあげられました。

短期的な取組みとして、まずは身近な方との連携を進めていけると良いでしょう。



C 班

三田新町町会の方と復興の流れと課題について話し合いました。

町会の役割は、在宅避難者と避難所および地域拠点の「もの」「情報」の中継役であることです。まず町会の受援力の弱さを認識し、災害時に共助できる事業所や札の辻広場の運営者との「ひと」の連携が欠かせないこと、芝桜のイベント等においてマンション住民・事業所・社協・消防・警察との「WinWin」な関係構築が大切であるという意見が挙がりました。

上記の他に、①これから行われる再開発工事完成時が、ひとと「つながる」貴重なタイミングであること、②災害時利用できる施設「場所」の事前確認が必要であること、③平時からの顔合わせや名簿管理についての課題もあがりました。

